

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

茨城県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK18029
SK15022
S24316

③施設名等

名称：	るんびにー
施設長氏名：	戸田 大我
定員：	42名
所在地(都道府県)：	茨城県
所在地(市町村以下)：	行方市芹沢1651-1
T E L：	0299-36-2771
U R L：	http://www.runbini.info/

【施設の概要】

開設年月日	38.078
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 照桑福祉会
職員数 常勤職員：	28名
職員数 非常勤職員：	21名
有資格職員の名称（ア）	保育士
上記有資格職員の人数：	12名
有資格職員の名称（イ）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（ウ）	心理療法士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	調理師
上記有資格職員の人数：	3名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	16室
施設設備の概要（イ）設備等：	多目的室・ホール・親子訓練室
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

一人ひとりにきめ細やかに関わり 大切にされていると感じる生活の営みを通して 人との間で生きる喜びを培う

⑤施設の特徴的な取組

<p>・子どもたち一人ひとりへの細やかなケア・アフターケア・自立支援基金の運用 児童養護施設を運営している施設はどこでもそうですが、当施設では特に子どもを中心においた支援を実践していると胸を張って言えます。</p> <p>一般の方からすると児童養護施設における児童の生活・自立の支援というものの自体もともイメージはありません。それは児童養護施設の成り立ちや入所の様々な事情があることからして社会への認知度があまり高くないのは当然だと言えますが、当事者からすると大変価値のある仕事だと感じながら従事しております。</p> <p>希望はどの子どもにも平等にあり、我々大人は目の前の子どもに「みんなの未来は明るいんだ」と伝えることを、一人ひとりの子どもに合わせて行っています。</p> <p>そのためには、多くの課題を乗り越えていく必要があります。少しずつでもいいので、自分たちのやれることをしっかりとやる、それが子どもたちの利益になると考えています。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2018/5/28
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2018/10/
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成26年度

⑦総評

【特に評価が高い点】

施設長や職員は子ども自身が主体的に生活日課や生活プログラムを決めることを尊重し、子どもに寄り添い、子どもの意見や要望に丁寧に答え受容的、支持的態度を継続することで、子どもとの信頼関係を構築し、生活の場である施設が子どもの安心・安全な居場所となるように支援している。

子どもが安心・安全に生活が出来るよう、ヒヤリハット強化週間を定め、ヒヤリハットの事例を職員が積極的にあげ、リスクマネジメント委員会で対応を検討し、必要に応じて職員会議等で報告している。定期的にヒヤリハットの事例を発生時間、場所、年齢等の統計を集計・分析し、今後の事故防止に役立てている。

施設長は年に2回職員と面談し、ボトムアップ方式で職員の意見を細かく拾い、業務改善につなげるとともに、義務研修、自己啓発研修、専門家による施設内研修や管理職員・先輩職員を講師としたミニ勉強会、他施設や企業の見学研修を実施し、職員の質の向上に努めている。

担当職員は児童相談所の児童票を基にアセスメントを実施し、子どもの意向を聞き出し、自立支援計画に反映している。自立支援計画は部門を横断したさまざまな職種による関係職員の合議（ケース会議年8回、外部の専門家（精神科医等）を交えた会議年3回）により策定した後に、職員会議で職員に周知を図っている。

「おいしい食事を楽しく食べる」ため、調理室では地元の新鮮な食材を多くのメニューに取り入れたり、子どもの希望を取り入れた自由献立、子ども達がメニューを決めて実施する調理実習等様々な取り組みが認められる。

心理的ケアの必要な子どもについて、心理士は、担当職員から子どもの状態等について相談を受けるとともに、心理ケアのプログラムを取り入れた自立支援計画書を作成している。アフターケアの取組みとして卒園する子どもに、自立後に予想される精神症状や身体の変化等をプリントして渡し、不安を和らげ、心配なら相談できることを伝えている。

【改善を求められる点】

年間の行事予定を子ども達に知らせたり、「るんびに一便り」として年4回、子ども達の様子を保護者に知らせる取り組みをしているが、事業計画や支援理念、基本方針等の資料についても分かりやすい資料を作成するなど、子どもや保護者に周知することが望まれる。また、相談や苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物を掲示したり、資料を子どもや保護者等に配布することを期待する。

事業所での重点課題として、職員の育成に取り組んでいるが、「期待する職員像」の策定や職員一人ひとりの目標管理の仕組みを構築していないので、施設が目指すべき職員像と目指すべき養育・支援の質の向上のための体制づくりを期待する。

地域小規模施設では業務マニュアルを作成し、業務の標準化を図っているが、本体施設においても経験年数の少ない職員も一定の水準で養育・支援を行えるよう、標準的な実施方法を文書化するとともに、子どもの個別性に着目した支援を行うことを期待する。

施設では子どもから出される意見や要望に個別に対応しているが、子どもの満足を把握するための調査を行うとともに、調査結果を分析・検討することで養育・支援の質の向上に結び付ける仕組み作りを期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

当施設の最大の課題は「人材育成」です。この課題に取り組んでしばらく経ちますが、人材育成にはやはり時間がかかると実感しております。

数年前の児童同士の傷つけ合いや職員から児童への権利侵害（心理的・身体的虐待）などを経て、幾度も支援内容や職員育成の内容を見直しながら、より子どもたちの利益になることは何かと日々実践してきております。

子どもたちの利益の実現には、それを実践する元となる運営側の風土や理念が醸成される必要があり、当施設はこのことを重点的に取り組んできました。

今はまだ途上にありますが、今後もじっくりと取り組んでいきたいと考えております。

評価者の皆様にはその点を十分にご理解いただき評価をいただきました。これを糧に、より外部の皆様にも説明ができるよう取り組んで参ります。

自己評価結果表【タイプA】（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	b ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 施設の支援理念、基本方針は明文化され、事業計画やホームページ等に掲示されている。基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。年度初めの職員会議で施設長から施設の理念、基本方針について職員に詳しく説明が行われ、共通理解が図られている。支援理念や基本方針をわかりやすくした資料を作成するなど、子どもや保護者に対する周知を検討することが望まれる。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	c ○ ○ ○
【コメント】 施設の小規模化・地域化に取り組み、現在は本体施設のユニット4ヶ所と地域小規模施設2か所の運営を行うなど、地域のニーズを把握するための努力をしている。「新しい社会的養育ビジョン」の他、社会福祉事業全体の動向や地域の各種福祉計画の策定動向と内容は把握しているが、分析するまでには至っていない。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

運営会議等で現状の分析を行い、経営課題を明らかにしている。施設の最大課題は人材確保・人材育成と考え、人材確保では求人情報誌を活用したり、就職説明会に参加するなど求人活動に積極的に取り組んでいる。人材の育成では、新採職員から2年目3年目の職員の丁寧な育成に努めたり、職員の研修として義務的な研修の他に、施設独自に自己啓発研修(希望研修)や他施設、企業見学研修を取り入れたり職員育成に取り組んでいる。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

事業計画に、中長期計画として4つの項目について優先順位を決めた計画を掲げ、職員にも周知しているが、その実現に向けた組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等に関する具体的な計画とはなっていない。中・長期的な目標(ビジョン)と計画を明確にして段階的に取り組む体制を構築することを期待する。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	c
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画を作成しているが、今後策定される中・長期計画の内容を反映して策定するとともに、数値目標を示したり、具体的な年度目途や計画の実施状況の評価したりすることを期待する。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

支援計画は、各種委員会で実施される年度末の反省を基に策定されている。年度当初の職員会議で支援計画書が職員に配布され、説明が行われ、支援計画書に則した施設の運営や日常業務が実施されている。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	

【コメント】

事業計画の主な内容が子どもや保護者等に周知されていないため、重点的な取り組みなどの具体的な内容をホームページや広報紙に掲載する等、施設の方針を分かりやすく伝え、理解を求める工夫が望まれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

虐待チェックリストを1年に1度職員に配布している。その回答を見て、「どういふ場面か？」等の施設長との懇談がある。定められた評価基準に基づいて、年に1回の自己評価を実施するとともに、第三者評価を定期的に受審しているが、実施した結果を分析・検討して次にどうしたかの経過が不明瞭となっている。今後は結果を反映する事ができるよう、見直し、改善に結びづくシステム作りを期待する。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

前回の第三者評価の受審結果を職員に周知するとともに、第三者評価の結果を分析し、結果やそれにもとづく課題を明確にして新たな文書やマニュアル作りに取り組むことを期待する。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

事業計画書の職務分担表に施設長の職務について明確に表記するとともに、職員に周知を図っている。日常の業務でも自らの役割に伴った行動で職員の見本となり、また日常のリスクマネジメント及び危機対応に対しても積極的に取組み職員からの信頼を得ている。職員会議等で施設長の役割と責任を明確に表明する機会を持つことと、不在時の権限移譲についても明確に定め職員に周知することを期待する。管理者としての理念・方針をどう具体化していくかを職員や地域、保護者等に伝えていくことが望まれる。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は遵守する関連法令を正しく理解し、自らも積極的に研修するなど関連法令の理解に努めている。全ての職員に被措置児童虐待防止研修に参加させるなど、職員が必要とする研修に出席させ、遵守する法令の正しい理解を促している。法令遵守等は法人の「業務管理体制整備規程」にて理事長により選任がなされている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は、各職員の裁量を尊び子どもをのびのびと支援させている。各種の会議や委員会を設置し、施設内の養育・支援の質の向上に向けた体制を整備している。研修計画を作成し全職員を外部研修に出席させたり、専門家を交えてのケース検討会や性教育の講演会等を内部研修として実施し、職員の教育・研修の充実を図っている。採用後の職員の定着を図れるよう気につけ、対話を忘れずに実行している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設長は月2回の運営会議の中で、経営の改善や業務の実行性向上に向けて意見・情報交換を行うとともに、その結果を職員会議で職員に周知し、職員の意識の共有に努めている。施設の最大の課題として人材の確保と育成をあげ、年2回の施設長と職員の面談の中で事前のアンケートを基に職員の意向を確認し、適材適所を考慮した人員配置を実施し業務の実行性を高めている。各種加算を受けられるよう人員配置を行い、業務の実行性を高める取り組みをしている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

第三者
評価結果

①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

福祉人材の確保・育成は施設の重点課題にも上げていて、学生以外の実習やインターンシップの実施等を計画するとともに、求人情報誌や大学等の養成校、求人説明会に積極的に参加するなど必要な福祉人材の確保に努めている。また、確保に向けた取り組みが、人材の確保につながるためにも、準備段階からの計画や経過報告と結果の報告のもと、法人役員会等にて検討されることが望まれる。福祉人材の育成については、各種研修制度を充実させ職員の人材育成に努めている。家庭支援専門員を2名配置するなど、各種加算専門職員の配置にも積極的に取り組み人員体制の充実を図っている。各ユニットに調理等に関する補助員を配置している。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができている。	
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	

【コメント】

人事考課を実施するまでには至っていないが、職員に事前に配布したアンケートを基に年に2回面談を実施して、委員会活動の希望や今後の就業状況の把握に努めている。「期待する職員像」を策定するには至っていないので、施設が目指すべき職員像と目指すべき養育・支援の質の向上のための「期待する職員像」を明確にすることが望まれる。また、それを具体的に進めるにあたり、職員が目標を持ち、その目標を「見える化」することで働く意欲の向上につなげるとともに、目標管理と支援職員育成に向けて目標管理の取組を期待する。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

職員の有給休暇の取得状況や時間外労働データを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。施設長は年2回職員に事前に配布したアンケートを基に面談を実施して、委員会活動の希望や今後の就業状況の把握に努めている。職員の福利厚生ではソウェルクラブの加入や職員住宅が確保され利用できるようになっている。メンタルヘルスへの配慮を更に加えていくことが望まれる。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

新採職員に対しては6ヶ月間はベテラン職員と一緒に勤務が出来るようにローテーションを組み、養育・支援のアドバイスを行うなど新採職員の育成に努めている。全職員に被措置児虐待防止研修に参加させ、その他勤続年数に合わせた研修計画を作成し、どの職員に対しても研修の機会を作っている。「期待する職員像」の策定や職員一人ひとりの目標管理のための仕組みを構築していないので、目標管理の仕組みを構築することが望まれる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【コメント】

職員の教育・研修については基本方針の下で義務研修、自己啓発研修、専門家による施設内研修や管理職員・先輩職員を講師としたミニ勉強会、他施設や企業の見学研修を実施し、職員の質の向上に努めている。職員に必要とされる専門技術や専門資格について、必要な研修に積極的に参加させている。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

新任職員をはじめ、職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。外部研修については、職員個々の状況に応じ個別に年度計画が定められ実施している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

事業年度ごとに実習計画を作成し、受け入れている。専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。学校側と実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【コメント】 施設のホームページ、広報誌等で情報公開が行われ、施設の支援理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報を適切に公開するなど運営の透明性を確保している。広報委員会を中心にホームページの更新・リニューアルや広報誌の発行先の検討等の見直しを行っている。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	c
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】 施設における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。内部監査は実施しているが、外部監査は実施していない。外部の専門家による監査は、経営改善の指針となる可能性が高いため検討することが望まれる。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 法人理念や事業計画にて地域関係機関との連携及び地域子育て支援を明文化している。子ども達が地区のレクリエーション大会、クリスマス会に参加したり、施設で開催する子ども祭りやクリスマス会に地域の人達が参加することで地域交流を図っている。普段から学校の友人が遊びにきたり、子どもが地域の家庭に遊びに出かけたりと交流を図っている。		

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

ボランティアの受入れ手引きに従って、個人情報の取り扱い等一定の事前説明を行った後にボランティアの受け入れを実施している。月1回のアートボランティア、週末を利用したおやつ作り等のボランティアが来園し、子ども達は希望に則して参加している。ホームページにて、理髪や外国語入門教室のボランティアを募集している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

児童相談所、学校、医療機関、消防署、企業等、社会資源のリストを作成し職員室に掲示するなど共有化が図られている。学校や児童相談所とは定期的に連絡会を開催し情報交換に努めている。市の子育て支援の職員が積極的に関わってもらっている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○

【コメント】

施設長は市の福祉計画策定委員の委嘱を受け、その活動を通じて地域の福祉ニーズを把握している。また、子ども祭りの開催を通じて地域住民と交流する中で、地域福祉ニーズの把握に努めている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【コメント】

地域のニーズに応じたショートステイ事業、地域の子育て相談や一人親家庭の相談に応じている。今後の取り組みとして児童家庭支援センターの運営の準備に取り掛かり、地域子育て支援に取り組んで行くことにしている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、それを踏まえた「倫理綱領」を策定している。子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、子ども一人ひとりの自立支援計画等に反映されている。子どもの尊重や基本的人権への配慮についての外部研修を、3年かけて全職員が受講している。子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価を行い、必要な対応を図っている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

就業規則の服務規律に「個人情報及び特定個人情報の保護」「秘密の保持」を定め、詳細な部分は個人情報保護規程に定めている。居室は主に個室で、2人用の居室でもベッドの周囲をカーテンで囲めるようにしてプライバシーゾーンが確保できるように配慮している。子どものプライバシー保護については、マニュアルで部分的に明示しているが、SMILE委員会(性教育委員会)により現在改訂版を作成している。プライバシー保護について、単独で規程の策定やマニュアルを作成することを提案する。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

施設内の文書や広報媒体（パンフレットやホームページ）に理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介している。子どもには「施設生活のしおり」を使い、施設の養育・支援内容について情報の提供をしている。今後、保護者に対しても、支援理念・基本方針・養育・支援内容や施設の特性等について、分かりやすく伝える資料を作成することが望まれる。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

「施設生活のしおり」を使い養育・支援の開始・過程において必要な情報をわかりやすく伝えている。希望があれば施設見学にも対応している。意思決定が困難な子どもや保護者等への説明資料等について、児童相談所と協議し、説明や運用を行っているが、図式化する等の配慮した資料作りを期待する。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○	

【コメント】

他の施設や地域・家庭に移行する場合は、児童相談所等の関係機関と十分に協議した上で対応している。現在引継ぎ文書の作成までには至っていないので、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を作成することを期待する。心理的支援を行っていた子どもには、退所後の相談方法について臨床心理士より説明するとともに、その内容を記載した文書を渡している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

施設側が定めた施設内でのルールは、子ども達の自主性を尊重し「自分たちで決めたルール」を大切にしている。栄養士による年2～3回嗜好調査を実施し、子ども一人ひとりが満足できる食生活ができるよう支援している。誕生日には職員と1対1で好きな外食ができるよう支援している。SMILE委員会により子ども一人ひとりに年に2～3回、日常生活の困りごとを含めて聞き取りの機会がある。部活動や塾、スポーツ少年団への送迎等、子ども一人ひとりのニーズに応じた支援をしている。地域小規模施設では毎週子ども達とミーティングを開いているが、本園では行われていないので、子どもの満足を把握するための取組みとしてアンケート等を実施し、その結果を分析・検討することで養育・支援の質の向上に結び付ける仕組み作りを期待する。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

「福祉サービスに関する苦情解決の実施規程」を策定し、意見箱の開錠は施設長のみとするなど、苦情解決の体制が整備されている。各グループごとに意見・苦情箱を設置し、子どもが意見や苦情を申し出しやすいよう工夫をしている。苦情の状況については、第三者委員に報告の上、ホームページに公表している。子どもにとって相談しやすい第三者委員となるよう、定期的な訪問や交流の場を設ける等の計画を考えていくことが望まれる。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

ユニットに面談室を設けたり、庭に小屋を設置するなど、子どもが相談や意見を述べやすいスペース等の環境作りに配慮している。子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べるが、そのことをわかりやすく説明した文書を作成するまでには至っていない。子どもの年齢や状態、保護者の状態に応じた独自の資料を作成することを期待する。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

各ユニットごとに意見・苦情箱を設置し、子どもが意見や苦情を申し出しやすいよう工夫をしている。SMILE委員会により子ども一人ひとりに年に2～3回、日常生活の困りごとや他者からの暴力について対面により聞き取る機会を設けている。「子ども同士の性的トラブル防止マニュアル」が制定されている。性暴力を中心に、悩み相談を夏冬年2回実施している。職員は日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすい関係性を築いている。毎週のグループ会議内で報告し、職員間でフィードバックし共有化している。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ヒヤリハット強化週間を定め、ヒヤリハットの事例を職員が積極的にあげ、リスクマネジメント委員会で対応を検討し、必要に応じて職員会議等で報告している。定期的にヒヤリハットの事例を発生時間、場所、年齢等の統計を集計・分析し、今後の事故防止に役立っている。業者が実施している種々の法定点検の他に、自主的に建物、設備、遊具等危険な個所がないか点検している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

衛生管理マニュアルを策定し、食中毒を含めた感染症の予防や感染後の対応についてフロー図を用いて分かりやすく規定している。子どもたちの健康診断は年2回行っている。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

防災マニュアルが整備され、災害の状況に応じたフローチャートにより対応が示されている。火災、地震、竜巻等を想定した避難訓練を毎月実施し、訓練後は訓練を通しての反省事項を検討している。食料品や日用品等を3日を目途に備蓄し、備蓄リストを作成している。災害時の関係機関や職員の緊急連絡網が作成され、職員にも周知している。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	c
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	
【コメント】		
地域小規模施設では業務マニュアルを作成し、活用しているが、本体施設において、標準的な実施方法を文書化していない。本体施設においても職員が養育・支援に関する一定の水準、内容を保てるよう、標準化を図るとともに、実施方法を文書化し、それぞれの子どもの個性に着目した支援を行うことが望まれる。		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	c
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【コメント】		
年少児のユニットには、歯磨き指導の方法等の手順が貼られているがマニュアルとして整理はしていない。養育・支援の標準的な実施方法については、子どもが必要とする養育・支援内容の変化や新たな知識・技術の導入を踏まえ年度末などに定期的に見直しを行うことを期待する。		

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

担当職員は児童相談所の児童表を基にアセスメントを実施し、子どもの意向を聞き出し、自立支援計画に反映し策定している。長期目標の下、短期目標を掲げ、支援目標、支援内容・支援方法を明示し支援計画を作成し、半年後に評価を行っている。自立支援計画はグループ会議で検討した後に職員会議で職員に周知を図っている。部門を横断したさまざまな職種による関係職員の合議(ケース会議年8回、外部の専門家(精神科医等)を交えた会議年3回)を実施している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもの意向を確認しながら、担当職員が自立支援計画書を作成し、グループ会議で検討し、職員会議で周知している。6か月経過後に評価を行い見直しを行っている。自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期(定期的には半年に1度、緊急時にはその都度)、検討会議の参加職員、子どもの意向把握等、組織的な仕組みを定めて実施している。見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。標準的な実施方法を策定し、見直した事項について反映することが望まれる。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

子どもに関する養育・支援の実施状況の記録は、統一した様式で記録するとともに、施設内だけでなく、地域小規模にもネットワークを組み共有化をしている。同一ソフトにて、子どもの記録や各日誌、会議録が入力され職員は自分の権限で確認することが出来る。但し、児童自立支援計画は含まれていないため、今後共有化するためにも統一していくことが望まれる。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

個人情報保護規程を策定し、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定や個人情報の不適正利用や漏洩に対する対策と対応方法が規定されている。記録管理の責任者（施設長）が定められている。記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。個人情報の取り扱いについて、子どもや保護者等に説明するまでには至っていない。

内容評価基準（25項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護	第三者 評価結果
<p>① A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。</p> <p><input type="checkbox"/>権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設独自の倫理綱領を定め、子どもの権利擁護に関する取り組みをしている。被措置児虐待防止に関する研修に全職員が参加している。日常的に宗教色を出した日課、行事はなく、子どもの思想・信教の自由については最大限配慮している。</p>	
<p>(2) 権利について理解を促す取組</p> <p>① A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/>権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子ども一人ひとりがかげがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。</p> <p><input type="checkbox"/>年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>児童相談所より配布された生活の手引きを使用している。子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明するための取り組みはできていない。施設では「人にやさしく、感謝の心をもって生きる」を処遇目標に掲げ、実践するとともに、職員は子ども一人ひとりが大切な存在であることを生活の中で伝えている。また、子どもに対し、ゲームの時間を含め一定のルールを守った上での自由であり権利であることを伝えている。</p>	

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	○

【コメント】

子どもからの自分の生い立ちを知りたいといった気持ちに寄り添い、子どもの年齢や発達段階に応じて生い立ち整理の作成としてライフストーリーワークを作成している。子どもの発達状況に応じて、適切に事実を伝えようと努めており、事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。子ども一人ひとりにアルバムが用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがづくられている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○

【コメント】

就業規則の服務規律に「体罰・人格的辱め(心理的虐待)等の禁止」を謳い、具体的には施設独自に「体罰及び不適切な係わりの防止規定」を作成し不適切な係わり防止に努めている。全職員が被措置児童虐待防止の研修会に参加している。1~2週間に一度個別面談を実施し、どんなことでも話せることを伝えている。被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。

(5) 子どもの意向や主体性への配慮

①	A5 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 余暇の過ごし方について、子ども自身が自由に選択し、一人ひとりの趣味や興味に合った活動が行えるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、金銭の管理や計画的な使い方などを学び、金銭感覚や経済観念が身につくよう支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員は子どもと日々の生活を共に過ごす中で、まずは傾聴に徹し子どもの意向を丁寧に聞き、子どもが生活の問題や課題に主体的に取り組めるよう促している。サミット（子ども達の会議）を開くことで、夏休みのレクリエーションの内容を決めたり、自分たちの生活のルール作りに主体的に取り組んでいる。小規模地域施設では週1回のペースでミーティングの時間を取り、子ども自身が主体的に考える時間を作っている。パソコンも置かれてインターネットの動画も見ることが出来る。サッカーの送り迎え、必要に応じて夜間に文房具を買いに行くこともある等、子ども中心の支援になっている。

(6) 支援の継続性とアフターケア

①	A6 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所の情報から、入所当日は本人の好きな献立（ウエルカムメニュー）をグループ全体で食事をしている。子どもが在籍していた幼稚園のバザーに足を運んだり、小・中学校を訪問している。入所前の学校から卒業アルバムを受け継いだり、入所前に利用していた乳児院からの訪問を受け情報を得たりと支援の継続性に努めている。

②	A7 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口（担当者）があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

高校生向けに調理実習を取り入れるとともに、司法書士による勉強の機会を設けるなど、退所後に向けた生活支援を行っている。退所後も施設に相談できる窓口があり、支援をしていくことを伝えている。退所者本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などの状況を把握するとともに、記録している。年に1回OB、OG会が開催され、子ども祭り等の行事へのボランティア参加を呼び掛けている。心理担当職員が退所者の家庭訪問を実施し、生活状況を確認したり話を聞いたりしている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A8 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○
【コメント】		
職員は子ども一人ひとりとしっかり向き合い、子どもの理解に努め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。子どもの行動上の問題に対しても子どもの成育歴を知るとともに、心理職（臨床心理士）によるカウンセリングによる、背景にある心理的課題に着目した支援をしている。パソコンのネットワークシステムにより、子ども一人ひとりの記録を全職員が見られるようになっており、情報を共有している。		
②	A9 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	
【コメント】		
子ども一人ひとりの基本的欲求については、担当職員中心に理解され、会議や自立支援計画の中で職員間の共通理解が図られるよう取り組んでいる。生活の決まりは、子どもの意思を尊重した柔軟なものになっている。子どもの友人宅への送迎や夜間の買い物等担当職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。幼少の子どもは、職員と一緒に寝ており安心感に配慮している。		
③	A10 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○
【コメント】		
子どもの力を信じ、子どもが自ら判断して行動できるように見守りの姿勢を基本に支援している。職員と子どもが共生の意識を持ち、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。不登校の子どもについても職員は子どもの見守りに努め、子どもに自分の居場所があり、大切に思われていることを実感できるよう心がけている。各ユニットに補助員を採用し、朝夕の忙しい時間帯に対応している。		

④	A11 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

幼児居室前の中庭には、幼児用の屋外遊具が設置されたり、学齢児が体を動かすグラウンドが整備されたりと、年齢、発達段階に応じた学習教材や遊具等が確保され、利用している。子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。

⑤	A12 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。発達の状況に応じ、身体の健康についての自己管理やインターネットやSNSに関する知識などが身につくよう支援している。地域社会への積極的な参加を図っている。

(2) 食生活

①	A13 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気の中で食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

おいしい食事を楽しみながら食べられるよう、地元の新鮮な食材を取り入れたメニューや自由献立、調理実習や食育等様々な取り組みを実施している。調理実習では子ども達が作りたいメニューを考え、栄養士がチェックして材料の購入から実施している。食育委員会で新聞(パックンタイムズ)を作成し食育を実施している。子どもの誕生日には職員と一緒に食事とプレゼントの買い物に外出している。小規模施設では、実施した献立を本体の栄養士に確認してもらい、栄養指導を受けている。

(3) 衣生活

①	A14 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○

【コメント】

年2回職員と一緒に衣類の購入に出かけ、自分の好みに合った衣類を選び購入するなど、子どもの発達状況や好みに応じた衣類の選択ができるよう支援している。

(4) 住生活

①	A15 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

女子ユニット、男子ユニット専用の玄関を設置している。玄関の目の前に職員室があり、職員は子どもの登下校の様子を見ることが出来る。小規模ユニットは個室が確保され、家庭的な雰囲気を感じるリビングが設置され、子ども達の集いの場所となる等、子どもの安全、安心な居場所が確保されている。2人部屋であってもカーテンなどで個別の空間が確保できる工夫をしている。身につけるもの、日用品などは、個人所有としている。食堂やリビングなどの共有スペースは常に綺麗にし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。

(5) 健康と安全

①	A16 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

毎月身体測定を実施、子どもの発育状況を確認したり、年2回の健康診断や検便、予防接種が適切に実施されている。毎日の入浴や下着交換等衛生面では健康的な生活を支援している。健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。

(6) 性に関する教育

①	A17 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

S M I L E委員会を設置し、月2回委員会を開催するとともに、子どもの理解度に応じた性教育の研究や職員研修の企画、性教育新聞の発行を行っている。年3回専門家を講師に招き、職員向けの性教育研修会を実施している。子ども同士の性的トラブル防止マニュアルが整備されて、対応にあたっている。S M I L E委員会で議論された内容は、職員会議にて全体に周知されている。年2回子どもとの面接の機会を作り「日常生活で困ったことがないか」等性被害を含めた困りごとの相談を受けている。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A18 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を守る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけてしようと努力している。	○

【コメント】

児童との定期的な面接（聞き取り調査）を年2回実施し、また日頃より子どもの変化や子どもの関係性に注視しトラブルを予防している。子どもの行動上の問題については、寄り添い、問題の要因を分析し施設全体で問題解決に取り組み、子どもが大切にされている実感が持てるよう、子どもにとっての癒しの場になるよう支援や配慮をしている。「体罰及び不適切なかかわりの防止規程」を定め徹底を図るとともに、外部研修に職員を派遣している。

②	A19 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっていいる。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

担当職員と心理担当者が子どもの状況に応じた支援をしている。小規模ユニットでは日常的に子ども同士の個別の係わりが出来ることで、子ども間の暴力や差別などが生じないよう取り組んでいる。子どもの変化について職員間で情報の共有に努め、子ども間の暴力が見られた場合には、職員の介入度を上げることで子ども間の関係性の安定を保っている。生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。ストレスの吐き口として他の子どもへのいじめにつながらないように、施設内ルールや行動の規制を緩やかにしている。

(8) 心理的ケア

①	A20 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

心理的ケアの必要な子どもについて、心理ケアのプログラムを取り入れた自立支援計画書を作成している。心理室での遊戯療法やカウンセリング等、心理療法を使った心理ケアを実施している。心理担当職員は専門家のスーパービジョンが受けられるよう事例検討会等の研修に参加する機会を作っている。アフターケアの取組みとして卒園する子どもに、自立後に予想される精神症状や身体の変化等をプリントして渡し、不安を和らげ、心配なら相談できることを伝えている。心理士は、担当職員から子どもの状態等について相談を受けるとともに、心理的ケアを、夜19時より一人50分単位くらいで実施している。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

①	A21 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生は下校後、中学生は夕食後に宿題の時間を確保し、休日にも学習の時間を設けている。塾へ通っている高校生や公文に通う中学生がおり、職員は送迎を支援している。特別支援学校に通う子どもについては、学校とも密に連絡を取り、個別に対応する丁寧な支援に努めている。

②	A22 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○

【コメント】

高校、大学等の進路選択については奨学金等の様々な情報提供を行い、子どもの最善の利益に叶った進路決定が出来るよう支援している。高校生の就職について職員が同行して会社訪問をするなど就職活動を支援している。高校中退や高校卒業後に次の進路が決まるまで児童相談所と協議して措置延長制度を利用している。NPO団体が中心となり、県内の中小企業団体(同友会)で児童養護出身者のフォローを考えている。離職者への情報共有も出来ている。

③	A23 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業者等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

高校生には将来の自立に向けた幅広い体験としてアルバイトを奨励しており、職員は送迎等支援している。アルバイトの賃金の使い道については、子どもと話し合いの中で欲しい物の購入も認めながら、運転免許取得費や学資等自立に向けた資金に充てるための貯蓄を促している。県内の中小企業と連携して、職場体験の実施が検討されている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A24 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

家庭支援専門相談員を2名配置し、家庭支援体制を強化している。家族との調整を図り、面会や一時帰宅等積極的に実施しており、遠距離等家族の事情によっては職員の送迎で家族との面会を実現している。家族に学園の行事や幼稚園や学校の行事、授業参観の日程等をこまめに知らせることで家族に必要なに応じて参加の機会を得ている。家庭専門相談員が携帯電話やショートメールを利用して、相談に応じている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A25 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

親子関係の再構築に対する支援方針が職員会議等で共有され、家庭支援専門相談員を中心に児童相談所等と密に連絡を取りながら面会、外出、一時帰宅を実施している。家庭復帰の近い児童については、親子生活訓練室を活用して生活体験をすることで家庭復帰につないでいる。児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家庭支援に取り組む、子どもが家庭に戻るよう定期的に外泊の機会を設けている。